

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	2070101288		
法人名	医療法人博人会		
事業所名	桜グループホーム		
所在地	長野県長野市篠ノ井二ツ柳字大当1432番地3 (電話) 026-290-1134		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年7月18日	評価確定日	平成19年8月17日

【情報提供票より】(平成19年 6月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤14人, 非常勤 2人, 常勤換算15.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 570 円
	夕食	540 円	おやつ 140 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年 6月22日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	6	要介護2	9
要介護3	1	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 82 歳	最低 59 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・厚生連篠ノ井総合病院 ・アイ歯科クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

NHKの大河ドラマ「風林火山」でも名の知れた川中島古戦場から西に4km程の篠ノ井に位置し、北は住宅、南は田圃という静かな立地条件の中で、時々近くの線路を通過する電車の音がある、生活感のあるホームである。同じ法人の運営する老人保健施設、通所リハビリテーションなどが併設された複合施設の一角にあり、今年から看護師を配置するなど、ケアの向上にも力を入れ、状態変化にも充分対応可能な安心して利用できるホームといえる。地区の運動会・春の清掃・新年会・どんど焼きなどへ参加し、近くの園児のホームへの訪問もあり、地域との交流を深めている。2ヶ月に1回運営推進会議を開き、家族や地区の代表の方から活発な意見をいただき、ケアの改善に活かしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) ホーム便りの発行、生活歴の情報収集の必要性は十分理解されており、まだ準備段階であるため今後の成果が期待される。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ホームでの生活やケアがマンネリ化しないために、自己評価・外部評価の必要性を理解され、改善点については常に前向きに検討・改善する体制がある。現に外出の回数が多くなったり、調理も以前は決まった人のみの手伝いであったのが、皆で協力出来るように改善された。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 昨年5月から隔月に開かれており、活動内容報告、自由討論等が行われている。その中で運営推進会議に出席しやすい日程およびマンネリ化しない議題等の検討がされている。また、家族からホームへの年間行事の提案などが活発にされ、外出の回数が多くなったり、意見を活かした取り組みが行われている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族が運営推進会議に参加し活発な意見を出している。ホームでも検討を行ない、日々の生活への対応がされている。また、本人からの苦情・意見については、市から派遣され、月に1回訪問されるあんしん相談員に聞いていただき、課題解決に努めている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営推進会議への地域代表者の参加、おやつレクを含む年4回の地区の方の訪問、運動会に呼んで頂くなど交流はされている。地域の協力を得て、年2回の防災訓練(夜間想定訓練・水害対策訓練等)が実施されている。
	⑥	

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた環境の中で暮らし続けられるよう法人の理念である「愛と共感」・「個人の尊厳」・「ヒューマンニズムの精神」を基に援助指針を掲げ、サービスの向上に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ISOのマニュアルを新任研修に活用するなど、管理者と職員は常に理念の共有をはかり、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	区費の支払いもしており、地区の運動会・春の清掃・新年会・どんど焼きなどへ参加している。ホームに年4回地区の方をお呼びし、おやつレクを開くなど交流に努めている。近くの園児の訪問もあり、節分・卒園の報告・クリスマス会などの交流も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・ホーム長は外部評価を積極的に受け入れ、指摘については改善に活かそうという熱意が窺えた。外出の機会の少ない方、活動場面の少ない方も当番制にしたことで活動が出来るようになった。		

桜グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の5月より2ヶ月に1回運営推進会議を開き、家族や地区の代表の方から活発な意見をいただき、課題については職員全員に周知し、ケアの改善に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回市から派遣されるあんしん相談員の訪問がある。入居者の意見を聞いていただき、市担当部署と相談しながらサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には声かけをし、また来られない家族には月に1回電話をするなど、日頃の様子を伝えている。	○	年2回ホーム便りを発行する予定があり、出来る限り早く発行されることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも家族が何名か参加し、出された要望・意見についてはスタッフ会議で検討し反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	認知症のケアであることを重視し、入居者の精神的安定を図るためにも職員の異動は出来る限り避けている。		

桜グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	レベルに応じた研修会の告知をしており、出来る限り参加できるように配慮している。また修了後は報告会を開き、職員間での共有に努めている。	○	サービス向上と情報の共有のためにも、今後、経験や習熟度に応じ研修会への参加を促されることを更に期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今回の外部評価の同月に、他のグループホームとの交流会の計画があり、サービスの質の向上への積極的な取り組みが窺えた。	○	今般初めて、他のグループホームとの交流会が計画されている。これを機会にネットワークづくりをされ、サービスの質の向上に役立てていただくことを期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約前に本人と家族に日帰り体験利用をしていただき、検討を重ねた後、利用契約をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に声かけをしながら、入居者一人ひとりのペースを尊重し、共に生活しているという良好な関係づくりが垣間見られた。		

桜グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居契約時に本人、家族から日頃の様子や希望をお聞きし、毎日のケアに活かしている。意思疎通が困難な場合には家族からその都度情報の収集を行っている。月1回訪問する「あんしん相談員」よりの情報も得ている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族からお聞きした情報を基に、介護計画を立てている。3ヶ月に1回モニタリングし、カンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。状態の変化が生じたときには、随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	4月より医療連携加算を追加し、非常勤の看護師を配置している。日々の健康管理や医療機関との連携を図り、看取りの指針も定めた。状態の変化に応じて本人と家族の希望を聞きながら、隣接の特別養護老人ホーム、併設の老人保健施設・デイケア・居宅介護支援事業所などの紹介なども行っている。美容院の希望を聞き予約をとっている。		

桜グループホーム


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々にかかりつけ医がおり、看護師の配置により一層医療との連携が充実し、適切に支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師の配置により、看取りの指針に沿って支援をしている。また、退居については1ヶ月を目安に本人と家族の要望にそえるように情報の共有を図っている。入院時は、医師との連絡を取り合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	援助指針にはプライバシーの保護、利用契約書には個人情報の保護・利用目的に関する条文が明示されており、利用契約時に本人・家族に説明され、同意が得られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩・買い物・調理の手伝いなど、出来るだけ希望にそえるように一人ひとりの体調・身体機能に合わせた支援を行っている。		

桜グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人の栄養士が立て、調理は委託事業者が行っている。朝・夕食は出来上がったものが運ばれ、盛りつけのみ行い、昼食は材料が運ばれ、入居者と共に調理をするようになっている。2ヶ月に1回“お好み昼食”として選択メニューが用意されている。外出も兼ね外食するときもある。	○	利用者の好みなどによりメニューの工夫、買い物楽しみ、調理等、「食」を通じた一連の場面作りの中で成果を積み上げられることを期待したい。職員は昼食以外は持参した食事としているが、“家庭的な”を考えると三食同じ食卓を囲み、同じものを楽しく食べることも望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の決まりはなく、最低でも1日置きか希望があれば毎日の入浴も可能であり、要望に応じた支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の手伝い・散歩・レクリエーションなど、個々の身体状況や能力に応じて支援している。	○	日々の生活に張り合いを持たせたり、楽しみごとに活かすためにも、個々の生活歴を更に細やかに収集していただきたい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前・午後と1日2回の散歩をしている。行事なども計画し、外食も含め外出の機会をもっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地横に深めの水路が流れているため、1階入り口はやむを得ず鍵をかけている。基本的には寄り添い、見守りによるケアを実施している。		

桜グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力も得ながら、夜間想定・水害の訓練など年2回の防災訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士によって献立が立てられ、栄養バランスにも配慮がされている。食事と水分の摂取量も把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏場には網戸に変え、空気の入れ換えをし、臭いには消臭スプレーを使用している。また、それぞれの季節感を表す飾り付けで廊下、居間などを演出するなどの工夫が見られた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは入る範囲であれば制限はしておらず、馴染みの電気製品から家具など自由に持ち込まれ、入り口には個々の手作りなどの暖簾が掛けられている。居心地の良い居室づくりへの配慮が窺えた。		

※  は、重点項目。